

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH290
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 4
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	佐藤 光浩, 柳井 徹哉, 畑山 元政
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>指尖から肘関節までの脱臼・軟部損傷の診断法・鑑別診断・整復法・固定法・後療法の概要を理解する。</p> <p>医師や関連医療職種との連携を円滑に実践するため、医療人として臨床現場で実践可能な知識の獲得を目指す。</p> <p>外傷施術を科学する探究心を涵養し、地域医療に貢献できる人材を目指す。</p> <p>生命の尊厳を考え、高い倫理性を持って幅広く国民の健康の回復と維持に貢献する人材を育成する。</p> <p>目の前に患者さんがいることを想定し実践力を養う。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>整形外科（物理療法室主任）や接骨院（院長）での25年以上に及ぶ臨床経験から、実践的かつ理論的に外傷に対する症状、鑑別診断、検査法、評価法、整復法、固定法について教授する。</p>
到達目標	<p>【科目特有の知識・技能についての到達目標】</p> <p>脱臼・筋腱軟部組織の非観血的な整復固定について理解する</p> <p>DP 伝承的（経験的）医療から近代医療の最新知識を修得し、科学的理論と伝承的医療技術を総合的に理解する能力を身につけ、痛みを訴える患者の心を理解し、解決への運用には協調性及び社会生活を円滑に保持し人間性を希求する態度を修得する。</p> <p>また豊富な臨床体験を通じ外傷で悩むものを早期社会復帰をなしえるかを考え、情熱的で独創性能力を身につける柔道整復師を求める。</p> <p>cp 少人数教育も取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。</p> <p>医師や関連医療職種との連携を円滑に実践するため、この科目に関する、他の疾病および傷害も理解し、臨床現場で実践可能な知識とコミュニケーション能力を獲得できるよう実施する。</p>
計画・内容	<p>1) ガイダンス 基本包帯法 予習 肘関節脱臼理論 復習 肘関節脱臼の分類、特徴 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>2) 肘関節脱臼 予習 肘関節脱臼後方脱臼 復習 肘関節後方脱臼・整復法・固定法 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>3) 肘関節脱臼 予習 肘関節後方脱臼の合併症 復習 肘関節後方脱臼 評価・整復・固定・合併症 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p>

計画・内容	<p>4) 肘関節軟部組織損傷 予習 肘関節軟部組織損傷 復習 肘関節軟部組織損傷の鑑別・スペシャルテスト 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>5) 1)～4)まとめ 確認テスト 予習 肘関節関節損傷について総復習 復習 1)～4)までの総復習 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>6) 近位橈尺関節脱臼・遠位橈尺関節脱臼・前腕の軟部組織損傷 予習 橈尺関節損傷 復習 橈尺関節損傷の分類・鑑別 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>7) 近位橈尺関節脱臼・遠位橈尺関節脱臼・前腕の軟部組織損傷 予習 橈尺関節損傷 の整復・固定 復習 橈尺関節損傷の整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>8) 橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼 予習 橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼の分類・特徴 復習 橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼の整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>9) 6)～8)まとめ 確認テスト 予習 橈尺関節損傷、手関節損傷について復習する 復習 6)～8)までの総復習 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>10) その他の手根骨脱臼・手根骨不安定症・手関節の軟部組織損傷 (含む TFCC損傷) 予習 手関節損傷の鑑別 復習 手関節損傷の整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>11) 手根中手関節脱臼・第1指中手指節(MP)関節脱臼・ 第2～5指中手指節関節脱臼、近位指節間 (PIP)関節脱臼・遠位指節間(DIP)関節脱臼 予習 MP、P P、DIP関節損傷の分類、鑑別 復習 MP、P P、DIP関節損傷の整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>12) 手根中手関節脱臼・第1指中手指節(MP)関節脱臼・ 第2～5指中手指節関節脱臼、近位指節間 (PIP)関節脱臼・遠位指節間(DIP)関節脱臼 予習 MP、P P、DIP関節損傷の評価 復習 MP、P P、DIP関節損傷の評価・整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>13) 手指の軟部組織損傷 予習 手指軟部組織損傷の分類 復習 手指軟部組織損傷の評価・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>14) 手指の軟部組織損傷 予習 手指軟部組織損傷の後療法 復習 手指軟部組織損傷の評価・固定・後療法 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p> <p>15) 試験とまとめ 予習 全ての項目について、鑑別、評価、固定、後療法について 復習 前期内容の総復習 1班 佐藤、2班 畑山、3班 松本</p>
授業の進め方	<p>グループやペアに分かれ評価表を基に評価を行い、 問題点や課題を理解する。 理論・実技の教科書をもとに 整復法、固定法を徹底して学習する。</p>

授業の進め方	また、テーピングを用いた固定法を学習する。 各教員がグループを見て回り、適宜指導を行う。
能動的な学びの実施	臨床現場にて遭遇することの多い外傷であるので、 実際にその患者が目の前にいることを想像し 整復、固定の練習をすること。 ロールプレイングなどによりグループワークを行い、 より臨床に即した講義と実技を展開していく。
授業時間外の学修	授業時間外学習（予習・復習 合計90分以上） 予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して 基本的な理解を得ておくこと 復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。 また、実習で得た技術は反復練習を行い技術向上を図る。
教科書・参考書	柔道整復学 実技編 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集 南山堂 必要に応じプリントを配布する。
成績評価方法と基準	期末試験の成績(100%)にて評価を行う。 評価要素として授業態度を評価点に加える。 期末試験の成績により評価するが、 対面での試験実施が不可能な場合は、 オンライン試験かそれに代わる授業での課題で評価する（50%） 実施する課題レポートの提出、内容を評価する（50%）。
課題等に対するフィードバック	課題提出後に、 授業内、または キャンパススクエア、WebClass、学内メールを利用し、 課題に対するフィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	進行の度合いにより内容が変更されることもある。 その際は事前連絡する。 実技に集中すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 感染症等の蔓延により制限を受けた場合は、 zoomを利用した非対面授業、 または人数を制限した対面授業を行う。 非対面授業の場合、授業課題提出を求める。 成績評価方法と基準 実技試験、授業への参加、課題提出等を考慮し総合的に判断する。 * オンライン試験かそれに代わる授業での課題で評価する（50%） 実施する課題レポートの提出、内容を評価する（50%）。